

# 障害福祉についての法制度拡充を求める請願



3



1



4



2

(今回の署名用紙には、しおかぜ作業所の河合彰子(主任支援員)のイラストが採用されています。)

きょうされん第44次国会請願署名・募金運動がはじまりました。

今回はコロナ禍のもとでも、障害のある人たちが安心して生活ができるよう医療体制の整備や生産活動が収入減となった事業所への補償をもとめる内容も追加しています。

とりくみは5月までです。みなさんのご協力をお願いいたします。

## 編集後記

「明日をつむぐ」新春号はいかがでしたでしょうか。新たな1年が始まりましたが、お正月の疲れがでるころだと思います。体調に気を付けてご無理をせずお過ごし下さい。

今年度、みなと福祉会では新たに6名の方が新成人となりました。ご成人おめでとうございます。今後、ますますのご活躍をお祈り申し上げます。

特集では、事業所紹介が第8回目となりました。今回は、ネットワークみなとを紹介しています。移動支援やホームでの写真もあり作業所とはまた違った姿が見られ楽しく過ごしている様子が伝わってきます。

きょうされん第44次国会請願署名・募金運動にとりくんでいます。「みんなのねがい」を届け実現につなげるために、仲間・職員みんなで頑張っていきますので、ご協力をお願いいたします。

今回、新春号においてご協力頂いた皆様、ありがとうございました。次回の「明日をつむぐ」もお楽しみに。(久保りも)

## 《寄付お礼》

- ・坂井田美代子様
- ・中山淑子様
- ・奥田稔様
- ・菊井知子様
- ・株式会社大谷商會様
- ・株式会社ヴァリダックス様

※2020年4月から12月にご寄付頂いた方々のお名前を掲載させて頂きました。(法人職員、家族、関係者等を除く)ありがとうございました。

※なお、みなと福祉会は名古屋市に「租税特別措置法による税額控除に係る証明」、「個人の市民税における寄附金税額控除の対象となる寄附金の指定」を受けています。

## 寄付お礼 株式会社ヴァリダックス様

株式会社ヴァリダックス 代表取締役 松尾龍飛克様よりご寄付をいただきました。ありがとうございます。

仲間の送迎などに使用するN-BOXの購入資金とさせていただきます。

有効に使わせていただきます。





## 「新しい年に向かって」

港区障害者児とともに育つ会 会長 磯崎 明美

新年あけましておめでとーございませう。昨年  
は、年明けの間もなく「新型コロナ」という、  
目に見えない魔物にとりつかれたように、人の  
命が、もて遊ばれているようにさえ見える恐怖  
を感じる毎日が続き、未だ先の見えない年明け  
になっていると思います。私たちの子どもは、  
医療や教育、働くことが保障されることで、命  
を大きく伸ばしてきています。しかし今、医療  
現場の厳しい状況を聞くにつけ、報道される内  
容をも知ること、家族依存で生活が成り立っ  
ている障害者家族の、もう限界という声があち  
こちで聞こえていることに、つらい思いをして  
います。

昨年春、「人間は愛され、信じられていると  
思った時、才能がほとぼしる」という信念のも  
と、日本で初めて肢体不自由児の養護施設「ね  
むの木学園」を作った、宮城まり子さんが亡く  
なりました。93歳でした。

静岡の海が見える小高い丘に「心を学ぶ学校」  
を設立され、「障害」というだけで、教育が受け  
られない当時の現実と、自身が子ども時代に経  
験した悲しみがあったという。彼女は「人が  
幸せに自分の能力を伸ばし、きちんと暮らすの  
が文化なら、それは福祉ではありませんか、そ  
う信じている、福祉は文化である」と。

私たちは家族の方々と一緒に、静岡県浜岡町  
の「ねむの木学園」と静岡県掛川市に施設を移  
されてからも二度見学し、お話を伺いました。

美術館を見学したことにより、私の息子が、  
当時は一般企業に就職していましたが、不況に  
より解雇され、いくつかの法人や就労継続A型  
B型事業所を、自身の都合で辞めたり、辞めさ  
せられたりと、長い在宅生活になる中で、息子  
が絵に対する興味をもったことで、一昨年、個  
展を開催することができました。

今回の写真「アマビエ」は昨年12月3日〜9  
日までの障害者週間のポスターの挿絵になりま  
した。この期間、名古屋市内の地下鉄に展示さ  
れて、多くの方に見て頂くことが出来ました。  
彼の生きる力になっています。

年賀に「アマビエ」は疫病払いになるとい  
うことで、悪いことが続いたから、運が開くと  
言われているので掲載させて頂きました。災い転  
じて福となるよう、お祈りしたいと思います。

何処かの偉い人が「自助、共助、公助」と、  
障害があることを自己責任とばかりに、障害者  
自立支援法が成立した時、多くの障害者、家  
族関係者が怒りに震えて、その為の国へ対する  
憲法違反とする戦いをし、国が謝罪するに至っ  
たのに今、また「コロナ禍で障害者いじめをして

いるような予算が削減される足音が聞こえてき  
ます。「禍福は糾える縄のごとし」と言っても、  
これは政治を司る人の「国民の為に働く内閣」  
と言っている方の仕事の怠慢だと思っています。「必  
ず遂げんと思わん人は、機嫌を言うべからず。  
とかくの用意なく足を踏みとどまじき也」「悪  
口を言われたら、悔しい、恥ずかしいと思いま  
すが、言った人も、聞いた人も、すぐに死んで  
いきますから、気にしなくていいのです。」から。  
私たちにはバッドエンドはない、トゥルーエン  
ドしかないと思って、今年も頑張りたいと思  
います。

「存命の喜び  
日々を楽しませ  
らんや」(徒然  
草より)の思い  
で。

地下鉄車内に張り出された  
アマビエのポスターと憲一



宮城まり子さん作品  
家族会員と物販で協力